

平成
21年度

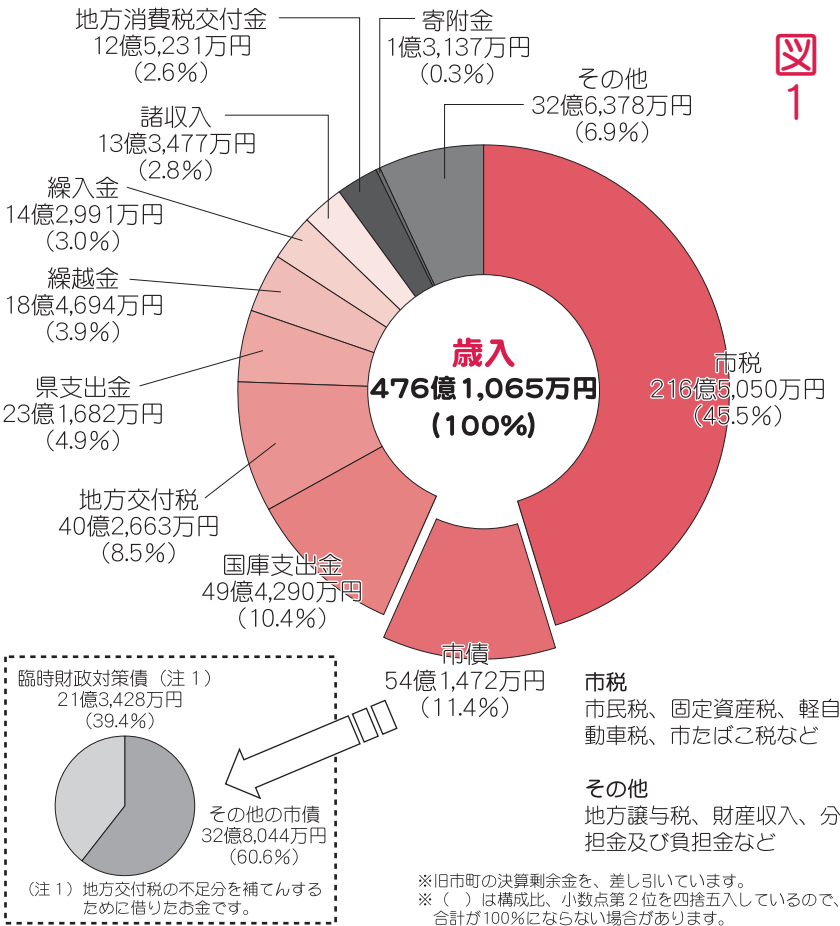
決算

をお知らせします

問合せ 財政課財政係（内線2423〜2426）

市のいろいろな仕事は、皆さんに納めていただいた税金をはじめ、国・県の補助金や借入金などをもとに行われています。

ここでは、平成21年度一般会計の歳入・歳出決算額の内訳と、各特別会計の歳入・歳出決算額、健全化判断比率・資金不足比率についてお知らせします。なお、21年度決算は合併前の旧1市3町と合併後の久喜市の決算を合計したものです。各会計の決算書は、公文書館および市立図書館で閲覧できます。



一般会計

平成21年度決算については、歳入決算額が476億1065万円、歳出決算額が457億5883万円、差引額は18億5182万円でした。ここから平成22年度へ繰り越すべき財源1億9976万円を差し引いた実質収支額は16億5206万円となりました。

歳入 (図1)

総額は、前年度比7.3%（32億1859万円）の増となりました。市税が前年度比3.1%（6億8199万円）の減となったものの、地方交付税が前年度比6.8%（2億5741万円）増となりました。また、地方債については、財源補てんによる臨時財政対策債の発行により前年度比50.9%（18億2746万円）増となりました。国庫支出金については、地域活性化・経済危機対策臨時交付金等の交付に伴い、前年度比44.2%（15億1481万円）増となりました。

歳出

総額は、前年度比9.4%（39億2284万円）の増となりました。

歳出・目的別 (図2)

総務費は、合併準備のための電算システム統合事業費や定額給付金給付事業費の増により、68.5%（39億3275万円）の増となりました。また、民生費は、旧鷲宮町認定こども園施設整備事業の実施等により、前年度比7.6%（7億8461万円）増、教育費は、菖蒲東小学校大規模改造事業費や小中学校ICT推進事業費の増により、13.8%（5億3175万円）の増となりました。

歳出・性質別 (図3)

公債費は、4.7%（2億6829万円）の減となりました。補助金等は53.5%（33億5658万円）の増、物件費は20.4%（10億6616万円）の増となりました。公債費が減っているのは、過去に借り入れた比較的高利率の市債の償還が進み、低利率の市債の償還時期を迎えているためです。また、補助費等が大きく増えているのは、定額給付金給付事業費の計上や合併準備に係る合併構成市町間の負担金の計上によるものです。物件費については、合併準備のための電算システム統合事業費の計上により大幅に増えています。